

和歌山病院臨床実習レポート



田中 菜穂子

3月1日～2日の二日間、和歌山病院で実習をさせて頂きました。

一日目は南方院長より胸部 X 線の正常画像について、柳本先生より呼吸不全患者に対する酸素療法についてご教授頂きました。大学の通常講義では階段教室に約 110 人の医学生が座り、先生の講義を聞きます。これとは異なり、南方先生のレクチャーでは少人数で机を囲み、先生が質問して下さりそれに対して学生それぞれが考え発言し全員で理解を深めていくというものでした。受動的に聞くのではなく自分で考え議論に参加するため、納得して頭に入れることができました。これまで正常か異常か、またどこが病変なのかが分からず胸部 X 線の読影で苦勞していたのですが、正常での写り方を原理から学ぶことで読影のポイントを理解することができました。胸部 X 線を読めるようになるためには、毎回まず自分で X 線画像を読むよう努力し、その後で先生に意見を求めるようにしなさいとのことでした。今年一年の臨床実習でたくさんの X 線画像を読むと思うので、実践していこうと思います。柳本先生による呼吸不全患者に対する酸素療法のセミナーでは、鼻カニューラ、酸素マスク、リザーバー付酸素マスク、ベンチュリーマスクなど実際に見て特徴を学び、BiPAP を用いて非侵襲性陽圧換気も体験させて頂きました。酸素療法に用いられる器具には様々な種類があり、患者の呼吸状態に合わせて選択できるようになっているのだと知りました。

二日目は駿田副院長先生から結核の感染様式、胸部 X 線像、胸部 CT 像、診断までの流れ、直接監視下短期化学療法<DOTS>など基礎から丁寧にご指導頂きました。結核について知識を整理し復習することができました。続いて南方先生から肺区域の覚え方「ブロンコ体操」をご教授頂き、肺区域を体で覚えることができました。これは呼吸器内科の臨床実習での気管支鏡検査において理解するのにとても役に立ちました。さらに胸部 X 線でシルエットサインがなぜできるのか、そして具体的にどのように写るのかを一日目同様 Discussion 形式で学ばせて頂きました。午後からは小野先生から実際の肺結核、肺非結核性抗酸菌症の胸部 X 線像を拝見させて頂き、空洞病変などご指導頂きました。

和歌山病院は県内で唯一の結核入院施設であり、結核病棟見学も予定されていたそうですが、今回は拝見することができず残念でした。しかし今回の実習では考え方について学ぶことができたので、それを応用することで、これからより自発的に考え学ぶことができ

ると思います。

最後になりましたが、南方院長先生、駿田副院長先生をはじめ和歌山病院の先生方、実習の機会を設けて下さり熱心にご指導していただき心から感謝申し上げます。この実習で学んだことを活かしこれからも精進して参りたいと思います。